



医系学生求ム!!

# 被災地支援ボランティア参加者募集中

日時：2014年3月28日(金)～30日(日)

場所：宮城県亶理郡山元町

内容：復興住宅での健康相談・レクリエーション企画、被災地見学、学習支援、清掃作業など

※内容は現地との調整により変更になる場合があります。

対象：医学生（医学部入学予定の方も参加可能です）

費用：3,000円（ボランティア保険に未加入の方は、加入金500円が必要です）

## ボランティア行程表

◆28日	◆30日
19:30 伊丹空港出発	8:30 被災地見学
21:00 仙台空港到着、前泊	16:00 活動終了
	17:00 仙台空港出発
◆29日	19:00 伊丹空港到着
9:00 活動開始	
16:00 活動終了	
18:00 夕食交流会	

☆お問合せ・お申込み先☆

滋賀民医連・医学生ボランティア係 E-mail : ms-shiga@shigamin.jp

※件名に「被災地支援ボランティア参加希望」、本文に「名前・学校名・学年・年齢・性別・住所・電話番号」を入力下さい。

— 滋 賀 民 医 連 —



震災直後から被災地への継続的な支援活動を行ってきました。これまでに多くの医学生のみなさんがボランティアに参加してくれました。参加したみなさんの感想を一部紹介します。一人一人のできることは小さなことかもしれませんが、現地での活動の一つ一つが被災地の支えに、また被災された方々の支えとなります。ボランティアに参加して、現地を見て、「被災地の今」を考えよう!!!



震災から2年が経過しているが、津波の被害を受けた地域の復興はあまり進んでいない印象を受けた。ガレキ類は片付いているが、家の再建やコミュニティの構築などはまだまだであると思う。

近畿大学1年生 Aくん

東北の現状を自分の目で見て、感じ、考えることに意味があるんだと考えました。高齢者の方達と触れ合い、関わられることで、すごく喜んでくれていました。将来、医師になった時の最も基本的なやりがいを感じることができました。

近畿大学1年生 Bくん



被災地の様子を一年ぶりに直接見て、復興は進んでいないと思った。仮設住宅に住まれていたが、自分の畑を無くしてしまった方の話を聞いて、誰かが被災地に行く、話を聞くということが大切だと感じた。関西と東北では震災に対する関心が全然違うので、自分もまわりに現地の様子を伝えるなど、何かしらの支援をしていきたいと思った。

兵庫医科大学3年生 Cさん



個人的に4ヶ月前にも来ていたのですが、それからあまり変わっていなかった。2年間という月日が風化させたのは、震災の記憶だけでなく、被災者の方々の氣勢もそうなのではないか。大阪医科大学2年生 Dさん

老人憩いの家での運動や手作業によって生まれる笑顔が被災者の心をいやすことが分かり、こういったことが健康にもつながり、大切なのだと感じた。

関西医科大学2年生 Eくん



被災された中学生・高校生がやる気をなくし、十分な教育を受けられていない状況を知り、かなり気になった。自分の進路の選択を増やすことが勉強だと思う。思春期の中学生や高校生は、こころの変化が激しいと思うので、学習支援や心のケアが必要だと感じました。

大阪医科大学5年生 Fさん